

令和3年度（地域再生計画2年目）



令和4年3月
北海道広尾町

□目次

事業目的	1
事業計画	2
実施報告	3
新たな栽培漁業の推進	
1 ウニ養殖企業化実証試験事業	4
地域の宝・広尾の子は広尾で育てるプロジェクト	
1 広尾町中高一貫教育連絡協議会運営事業	6
サンタランドの魅力向上プロジェクト	
1 イルミネーション設置・購入事業	8
2 サンタランド点灯式プロモーション	9
子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業	
1 農山漁村ホームステイ事業	11
2 事後交流と学校給食への農産物・海産物提供事業	11
（1）荒川区交流都市フェア	12
（2）学校給食への食材提供	12
日高東部3町との広域事業	
1 広域連携映画製作準備活動	14
事業への協賛	15

事業目的

本町は昭和 40(1965)年に総人口が 13,598 人となりピークを迎えたが、1970 年代の高度経済成長期に 2,000 人を超える人口が減少し、その後、人口が維持される時期もあったが、1980 年代後半に人口が減少し始めてから、一貫して人口減少が続いている。直近の人口は令和 2(2020)年の 6,387 人(令和 2 年国勢調査)であり、ピーク時から 50 年で人口は半減した。ここ 5 年間の人口減少率は約 10.8%となっており、国及び北海道と比較して、かなり早い時期から人口減少が進行している。国立社会保障・人口問題研究所によると、令和 27 年(2045)年には 3,394 人、令和 47(2065)年には 1,770 人にまで減少すると見込まれている。

人口減少の要因として、本町の出生数は、2001 年から減少傾向にあり、2000 年の 85 人から 2019 年は 34 人となっている。

社会増減は、毎年転出者が転入者を上回っており、進学や就職を機会とした若年層の転出超過が原因と考えられる。基幹産業のひとつである漁業では、深刻な担い手不足と高齢化が進み、漁業所得が低下するなど、地域経済の衰退を招くおそれがある。

このように、人口減少が地域経済や住民生活に与える影響は大きく、この課題に緊急に対応するため、以下の事項を本計画の基本目標に掲げ、産業を活性化し雇用を創出することにより社会減を抑制するとともに、町内で働く若い世代が結婚し、子どもを産み育てる環境を整えることにより、自然減を抑制する。また、まちの魅力を高め、町外からの移住・定住を促進するとともに、交流人口や関係人口の拡大を図り、町民も町外からやってくる人も共に安心して楽しく過ごし、暮らすことのできる地域社会の創出をめざす。

基本目標 1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

基本目標 2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待っています

基本目標 3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

基本目標 4【ひとづくりと地域連携】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する

事業計画

基本目標1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出事業

漁業・農林業の新たな担い手の確保、新規就業者支援施策の推進、産業分野におけるICT、AIなど未来技術の導入に向けた検討、重要港湾を管理する強みを生かした港湾関連企業の誘致や定期航路の開設など港の利活用の促進、豊かな食資源・森林資源の活用による地域ブランドの確立や第6次産業の推進による高付加価値化、食文化の伝承など、本町の強みである「海と山の資源」を生かすことにより、各産業に活力を与え、各分野において新たな「しごと」と「産業」を創出する。

基本目標2【移住定住】

海と山が溶け込むまち・広尾はあなたを待ってます事業

海や山など豊かな自然に囲まれた暮らしを満喫できる魅力をアピールし、シーズンステイ志向者を対象とした受入体制の構築、短期労働と移住体験を組み合わせた体験メニューの創設、ふるさと納税やクラウドファンディングなど企業や都市部から資金面での支援を得ることができる魅力あるまちづくり、地域交通の利便性の確保、町民・移住者の双方が居場所と役割を持ち、安心して楽しく暮らせる地域社会の創出など、広尾ファンを全国に増やし、自然と共生した快適な暮らしをイメージさせ、移住定住の促進を図る。

基本目標3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援事業

保育園や子育て支援センターを拠点とした子育て支援の充実、子どもを安心して産み育てる環境の整備、子育て中の保護者の負担軽減など、子どもの健やかな成長をまちぐるみで支え合いながら少子化の流れを緩和する事業のほか、広尾高校と地元企業との結びつきの強化、都市部との学習環境・各種活動格差を是正し、希望の大学への進学率を高めるための施策、部活動への支援及び専門指導者の招聘、広尾ならではの新たな部活動・文化活動の創設支援、防災教育の充実、広尾高校町民応援団の設立など、広尾高校を地域コミュニティの中核的存在として地域ぐるみで応援する体制を整備する。

基本目標4【ひとづくりと地域連携】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する事業

まちづくり町民みらい会議の開催、まちを学ぶ講座の開設、広尾町検定の導入など、子どもから高齢者までがまちの現状を学び、将来のまちのあるべき姿について主体的に考えることにより、まちの未来を切り開く人材を育成する事業のほか、サンタランドのまちづくり、豊かな自然を生かした体験型観光の充実、多彩な地域間交流による関係人口の拡大やまちの賑わい創出など、まちの観光資源に磨きをかけ、町民の力を活かしてその魅力を最大限にアピールし、交流人口や関係人口の創出・拡大を図る。

》 実 施 報 告

基本目標1【雇用対策】

海と大地に根ざした活気あふれる産業の育成と新たな雇用の創出

○第一次産業及び商工業の活性化につながる雇用・起業支援

実施事業1：新たな栽培漁業の推進

基本目標3【少子化対策】

サンタのまちで子どもを産み育てる環境の充実と健やかな成長を支援

○子育て環境を充実させ、高校生までの子どもを地域ぐるみで見守る核をつくる

実施事業2：地域の宝・広尾の子は広尾で育てるプロジェクト

基本目標4【ひとづくりと地域連携】

まちを知り、まちに関わる人を育て、まちの魅力を発信する事業

○サンタのまちの新しい観光産業の創出と情報発信の強化

実施事業3：サンタランドの魅力向上プロジェクト

○多様な地域交流による関係人口拡大とまちの賑わい創出事業

実施事業4：子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業

実施事業5：日高東部3町との広域事業

実施事業1

新たな栽培漁業の推進

■事業概要

近年、海洋環境の変化による沿岸・沖合資源（サケ・シシャモ・イカ等）の度重なる来遊不振により、本町漁業は今後の経営の維持安定に不安を抱える状況となっている。

そのため、不安定な沿岸・沖合資源に依存することのない新たな漁業の確立が必要とされており、広尾漁協で前浜資源の増大を目的として行っているウニの人工種苗生産の技術を活かし、「ウニ養殖漁業」を計画し、沿岸漁業等と並列可能な漁業を模索していく。

1. ウニ養殖企業化実証試験事業

■事業目的

十勝港に新たにウニ養殖施設を設置、同時にウニの餌となるコンブを作るための養殖施設を併設設置し、広尾町の海洋資源のみでつくり育てる「完全養殖」を目指す。

■事業内容

十勝港に新たにウニ養殖施設を設置、同時にウニの餌となるコンブを作るための養殖施設を併設設置、また、給餌や清掃など施設管理に使用する作業船を整備した。

設置した施設でウニとコンブを育成しつつ、施設管理を行った。



ウニ養殖簗施設



ウニ養殖簗給餌作業

■事業の成果

「ウニ養殖企業化実証試験事業」を約3年間実施していくための養殖施設、作業船の整備が完了した。

■今後（令和４年度以降）の展望

「ウニ養殖企業化実証試験事業」を約３年間実施し、養殖技術確立の検証を行い、外海での養殖を可能とする耐波性に優れた施設構造を模索するなど、漁業者が広く従事できる「広尾町の新たな漁業」の確立を検証していく。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
26,559,244 円	1,000,000 円		12,500,000 円	13,059,244

※その他は国・道支出金

実施事業2

地域の宝・広尾の子は広尾で育てるプロジェクト

■事業概要

(基本理念)

郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる
～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～

(テーマ)

基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導

(連携の柱)

- ①基礎的な学力を身につけ、個々の調和のある資質・能力を高めるための連携・接続
- ②豊かな人間性や社会性を育む諸活動の連携・接続
- ③地域に学び、自己を見つめる「総合的な探究の時間」における連携・接続

1. 広尾町中高一貫教育連絡協議会運営事業

■事業目的

基本理念・テーマ・連携の柱に沿って、以下の生徒の育成を目指す。

- (ア)「確かな学力」を身につけ、自ら学び、自ら考える生徒
- (イ) 豊かな人間性や社会性を育み、自己実現に努力する生徒
- (ウ) 地域に学び、地域に貢献する生徒

■事業内容

中学校と高等学校の連携によるＳＣＣ授業（相互乗り入れ・公開授業）、基礎学力テスト、オープンクラスウィーク（相互授業参観）、各種検定の合同実施、ボランティア活動の連携、生徒会交流、進路講話、インターンシップ発表会等を行った。また、資格検定料や模擬試験料の補助など、魅力ある学校づくりを通じた地域教育の充実を図るため、広尾高校サポートプラン１２を展開した。



広尾町立広尾中学校



北海道広尾高等学校

■事業の成果

進路内定者（就職 11 名、専門 13 名、短大 1 名、看護 1 名、私大 7 名、国公立大 2 名）
検定合格者（英検 46 名、漢検 30 名、数検 8 名ほか ※中高生の合算）

■今後（令和 4 年度以降）の展望

発達段階に応じた中高 6 年間の到達度・系統性の整理、中高が連携した教育活動の発展、また、将来的には小学校も含めた 12 年間の教育を展開し、「目指す生徒像」に向けた生徒の育成につなげる。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
6,378,000 円	2,660,000 円			3,718,000 円

実施事業3

サンタランドの魅力向上プロジェクト

■事業概要

既存のサンタランド事業を継続し、内容を充実させて発信力の強化を図る。話題性のある取組を新たに企画し、まちぐるみで取り組むことにより、サンタランドの魅力や精神、イメージを町内外にPRするとともに、写真映えするシンボルスポットを整備するなど、中高生・若者の興味を惹くような取組を織り交ぜ、サンタランドの魅力をさらに向上させる。

1. イルミネーション設置・購入事業

■事業目的

例年 10 月下旬からクリスマス時期に実施しているサンタランドイルミネーションにおいて、イルミネーション灯具の設置管理を専門事業所に委託する事で安全かつ適切に管理する。また設置するイルミネーションはLEDのものを新規に購入し、消費電力の削減に努める。イルミネーションの設置・購入を継続することにより、冬期のサンタランドのシンボルとして大丸山森林公園への集客を増やすことで交流人口の増加につなげる。

■事業内容

○イルミネーション設置管理委託業務（業務期間 R3.8.26～R4.2.25）

大丸山森林公園内にあるサンタの家、サンタの部屋、サンタ工房、あずまや、太鼓橋、ブーツ型ゲート、公園内街路樹へのイルミネーション装飾。またサンタの家周辺ゾーンに円錐型イルミネーションを設置した。

○イルミネーション購入業務（業務期間 R3.7.22～9.30）

LED イルミネーション（100 球タイプ）及びサンタロード用 LED モチーフ（結晶型）を購入した。（白 100 本、青 80 本、シャンパンゴールド 72 本、モチーフ 10 基）



イルミネーション全体（ツリー点灯式の様子）



サンタの家前広場イルミネーション

■事業の成果

これまで大丸山森林公園内のバーベキューハウス等、散らばって設置されていたイルミネーションを廃止し、サンタの家周辺のゾーンにイルミネーション装飾を集中させることにより、来場者の満足度アップにつながった。

またイルミネーションをLED化することにより、省電力化が図られた。

■今後（令和4年度以降）の展望

冬季以外の期間もイルミネーションを点灯することにより、大丸山森林公園をサンタランドのシンボルとして地域住民や観光客に定着させる。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
6,827,700 円	650,000 円	5,000,000 円		1,177,700 円

2. サンタランド点灯式プロモーション

■事業目的

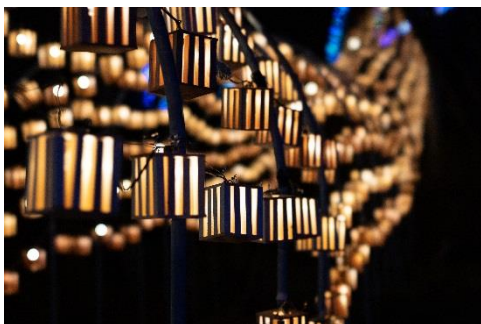
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、サンタランド点灯式を集客イベントとして開催できないことから、点灯式の模様を動画作成し、オンライン動画配信することでサンタランドの魅力を全世界に発信する。

■事業内容

Youtube 用動画制作（オープニング動画作成、当日生配信及び編集）

■事業の成果

点灯式をオンライン動画配信することによりサンタランドの魅力を全世界に発信ができ、その後の広尾町及び大丸山森林公園への来客数の増加につながった。



点灯したウッドイルミネーション



イルミネーションで装飾したサンタの部屋

■今後（令和４年度以降）の展望

新型コロナウイルス感染拡大の状況により令和４年度以降もオンライン動画配信によるツリー点灯式は想定され、サンタランド事業の認知を広めるため、インターネットでのコンテンツは有効に活用していく。かたや会場イベントとして開催されることも念頭に置き、ウィズコロナに即した開催方法を検討していく。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
550,000 円	550,000 円			

実施事業4

子ども農山漁村交流から始める「まち・ひとづくり」事業

■事業概要

ホームステイをはじめとした子ども農山漁村交流事業を入り口として都市部との交流を行い、関係人口の創出・拡大や将来的な移住・定住の促進につなげることを目的として実施。

本町においては、平成27年に総務省から「子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業」に採択され同事業を開始、平成28年には地方創生加速化交付金を活用し漁村ホームステイとその関連事業に取り組んだ。平成29年からは「企業版ふるさと納税制度」に係る地域再生計画の認定を受け、企業からの寄附金等を財源とした持続的な運営体制の構築を図っている。

1. 農山漁村ホームステイ事業

■事業目的

広尾町ホームステイ受入協議会と町が協働し、東京都内の小学5年生を2泊3日で受け入れることにより、食事や歓談での家族のようなふれあいや農業・漁業体験など、ありのままの農山漁村生活を通して子どもたちの力強い成長を支えるとともに、食や生産現場に対する関心を抱いてもらう。また、本町の漁業者や農業者が受け入れを通して地域資源の価値や魅力を再認識することで、産業振興や地域活性化につなげることを目指す。

■事業内容

東京都荒川区立尾久西小学校5年生を広尾町ホームステイ受入協議会の漁家・農家で受け入れる予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

■今後（令和4年度以降）の展望

新型コロナウイルスの感染状況に応じて事業を再開できるよう、体制を整えるとともに、オンライン等を活用した代替事業の実施を検討する。

2. 事後交流と学校給食への農産物・海産物提供事業

■事業目的

農山漁村ホームステイ実施後、ホストファミリーの漁家・農家が受け入れた小学校の学校行事に参加し、子どもたちやその保護者とふれあい、農山漁村ホームステイの意義を伝えることで、一層の交流の深化を図る。また、受け入れた小学校の学校給食に本町の海産物や農産物を提供することで、食や生産現場に対する関心の掘り起しや広尾町産食材の宣伝を図る。

■事業内容

（１）荒川区交流都市フェア

農山漁村ホームステイで育まれた絆とつながりを生かし、首都圏に向けて本町を宣伝する取組として、区が主催する「荒川区交流都市フェア」に参加した。オンラインでの特産品販売と同時に、荒川区内の施設で交流都市の紹介パネル展示やパンフレットの配布が行われた。

[荒川区交流都市フェア in 秋まつり]

実施期間：令和３年１１月１日（月）～ １１月３０日（火）

[荒川区交流都市フェア in 春まつり]

実施期間：令和４年２月１４日（月）～ ３月１４日（月）



荒川区でのパネル展の様子（左）と広尾町ブース（右）

（２）学校給食への食材提供

農山漁村ホームステイで交流のある小学校を対象に、学校給食へ広尾町産食材を提供した。荒川区立尾久西小学校を始め、荒川区立第二日暮里小学校、荒川区立第三日暮里小学校へ食材を提供したほか、荒川区内の小・中学校へ広尾町産の昆布を提供した。

[尾久西小学校]

尾久西小学校では、「北海道広尾町と連携した食育推進給食」を３回実施した。また、提供した食材の生産現場を伝えるため、広尾町ホームステイ受入協議会の漁家・農家の協力のもと動画を作成し、給食の時間に上映した。

○１１月 ２日 昆布・秋鮭・にんじん

「鮭のゆずみそ焼き、野菜と昆布の炒め煮」

○１１月 ９日 つぶ貝・ししゃも・昆布・じゃがいも・牛乳・にんじん・玉ねぎ

「つぶ貝ご飯、ししゃもの磯部揚げ、野菜のみそ汁、ミルクプリン」

○１１月 １６日 牛肉・かぼちゃ・じゃがいも・にんじん・玉ねぎ

「牛肉ハンバーグ、ポテトバターソテー、かぼちゃ入りスープ」



11月9日に尾久西小学校で提供された給食



食育動画（ししゃもの選別作業）

■事業の成果

学校の協力もあり、広尾町産の海産物・農産物の魅力を児童・生徒たちに伝えることができた。また、今年度は新型コロナウイルスの影響によりホームステイは実施できなかったが、児童・生徒たちへ「北海道広尾町」という一つのまちを知るきっかけを提供できた。

■今後（令和4年度以降）の展望

本事業を継続することで都市部との一層の交流促進を図るほか、食や生産現場に対する関心の掘り起しや広尾町産食材の宣伝・販路拡大につなげる。また、事業の運営に不可欠な財源の確保について、企業版ふるさと納税や個人版ふるさと納税などを活用し、持続的な運営体制の構築に取り組む。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
369,431 円	340,000 円	9,431 円	20,000 円	

※その他は一般指定寄附

実施事業5

日高東部3町との広域事業

■事業概要

えりも町・浦河町・様似町の日高東部3町と連携した映画作成事業で、浦河町出身の田中光敏監督を中心に、2023年の全国劇場公開に向け準備を進めている。

1. 広域連携映画製作準備活動

■事業目的

劇場映画「北の流水（仮称）」製作実現のための支援や協力活動を通じ、四町最大の観光資源である襟裳岬の緑化事業に誇りを持ち、とんがりロード広域連携の中心的観光目玉として映画を活用することで観光誘致を図る。

劇場映画「北の流水（仮称）」

1950年に森林伐採で砂漠化した荒れ地に地元漁師らが木を植え続け、豊かな森と海をよみがえらせた史実で、日本人の先人が残した自分たちの魂、日本人のあるべき姿を未来へ伝え残すため、映画製作の実現に向け取り組んでいる。

■事業内容

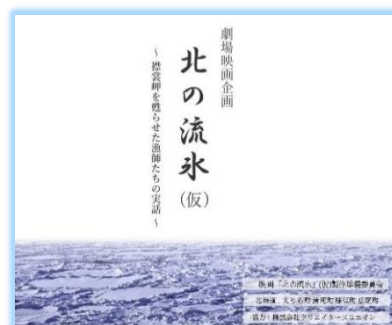
映画製作実現に向けた支援・協力活動

四町による個人版ふるさと納税での負担金予算資金調達

映画製作打合せ

映画支援要請活動（東京都、札幌市及び四町）

製作準備活動負担金 250,000 円ほか支出



■事業の成果

広く映画支援要請活動を行うことで、映画製作実現のための支援や協力団体からの理解を得ることができ、将来的な知名度向上や全国劇場公開に向けた準備の促進につながった。

■今後（令和4年度以降）の展望

関係機関への支援・協力要請活動や企業版ふるさと納税、個人版ふるさと納税での予算資金調達を継続して行い、映画製作実現に向け各般の活動に取り組む。

■収支決算

事業費	事業費の財源内訳			
	企業版ふるさと納税	個人版ふるさと納税	その他	一般財源
5,550,000 円	2,000,000 円	3,300,000 円		250,000 円

事業への協賛

広尾町まち・ひと・しごとづくり事業に協賛いただいた企業版ふるさと納税の寄附金額を紹介します。事業へのご賛同に心からお礼申し上げます。

[企業版ふるさと納税]
 (順不同・敬称略)

企業名	所在地	寄附金額(円)
(株)北口電器商会	帯広市	1,000,000
大昭電気工業(株)	帯広市	1,000,000
東日本富士新道路(株)	帯広市	200,000
(株)アルムシステム	帯広市	希望により非公表
(株)アルム	帯広市	
(株)十勝あすなろ会	帯広市	
川田工業グループ	帯広市	

[一般指定寄附]
 (順不同・敬称略)

企業名	所在地	寄附金額(円)
(株)ズコーシャ	帯広市	20,000

〒089-2692

北海道広尾郡広尾町西4条7丁目1番地
広尾町役場

企画課企画防災係

電話：01558-2-0184

ファクス：01558-2-4933

電子メール：k-kikaku@town.hiroo.lg.jp